

華東師範大学・北京師範大学・上海市教育科学研究院との 研究交流活動

平成27年度後半に標記の大学および研究院との間で行った研究交流活動の概要を報告する。

1. 博士課程進学説明会

11月1日～5日に人間系専攻合同による博士課程進学説明会を、華東師範、北京師範の両大学で開催した。教育学域からは浜田博文、藤田晃之、上田孝典が参加した。

華東師範大学では11月2日の9:30～11:30に任友群副校長、黄瑾教授（教育学部副主任）、楊福義教授（教育学部国際部主任）、張方曉（研究生院培養処副処長）、李偉勝教授（教育管理系主任）、孫玫璐教授（職業教育と成人教育副所長）と各教員の専門分野に関する交流を行った。あわせて、ダブルディグリー・プログラムの開設に向けて両校の教育学関係専攻の院生・教員の相互交流を拡充することについて積極的な意見交換を行い、年度内に本学の教員・院生の数名が再訪中して研究フォーラム等を開催することの合意が交わされた。その日の14:00～16:00に専攻説明会が開催され、約10名の参加者があった。いずれも熱心に留学を希望している学生であった。



11月4日の10:10～11:30には北京師範大学で教員交流会を開催した。桑国元副教授（教師教育研究センター）、武海濤（国際交流事務室主

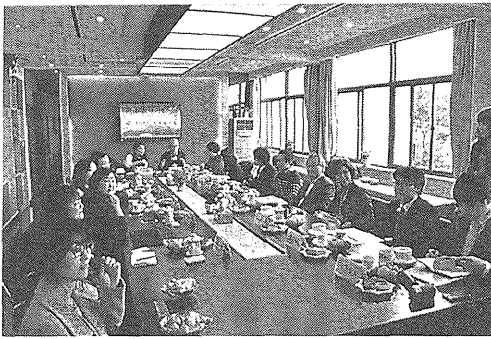
任）、黄欣（教学事務室主任）が出席された。進学説明会は14:00～16:00に行われ、参加者は16名で、いずれも熱心な学生であった。

2. 大学院生による研究フォーラムの開催等

人間総合科学研究科の「革新的な教育プロジェクト」経費交付を受けて、平成28年3月1日～6日の日程で大学院生6名と教員3名を華東師範大学および上海市教育科学研究院に派遣し、研究者・院生等との研究交流を実施した。教員の訪問者は、庄司一子、上田孝典、浜田博文で、院生の訪問者は、勝田光、栗原和弘、高野貴大、本田辰雄、丁甜甜、王巖崧であった。



3月2日には上海市教育科学研究院を訪問し、陳国良院長、張珏副院長、国家教育部普通教育研究所の楊金芳主任ほか、多くの研究者等と研究交流を行った。その際、楊主任から、本学教育学域の研究者との共同研究と、平成28年度に本学へ是非とも訪問して研究交流を図りたいという申し入れがあった。3月3日には上海市内の公立小学校2校を訪問し、授業を参観するとともに各学校の校長・教員との交流会を行い、活発な意見交換が行われた。



3月4日の13:00～16:00には、華東師範大学の博士課程院生5名と本学派遣院生6名との日中教育学研究フォーラムが開催された。これは、翌3月5日に予定されている「筑波大学フェア2016」のプレイベントとして位置づけられた国際フォーラムである。すべての院生は自身の研究を英語で発表し、相互の教員・院生が質問して協議するという会で、たいへん充実した研究フォーラムであった。続いて16:00～17:30には進学説明会を開催した。参加者は約10名であったが、現役院生と熱心な質疑応答が交わされた。



3月5日の13:00～17:00には現地在住の本学卒業生等が集まって「筑波大学フェア2016」が開催された。本学の海外拠点の一つとして華東師範大学内に設置されている上海オフィスが主催したイベントである。その後半には「グローバル化時代の人材育成」を主題とするシンポジウムが開かれた。登壇者は伊藤真副学長、依田誠氏（三菱商事）、陳永明氏（上海師範大学教授）と浜田博文で、依田氏は本学の卒業生、陳教授は旧教育学研究科の修了生である。

（＊この派遣プログラムについては報告書をPDFファイルで作成し、学域教員および博士課程院生にはメールで配信した。）

3. 華東師範大学一行の本学訪問

3月10日に、華東師範大学から任友群副学長、袁振国教授（教育学部主任）、呉遵民教授、潘世聖教授（日本語学部主任）、邱化寅氏（審計算処処長）、屠曉明氏（国際交流処日本事務担当）、王智新氏（日本同窓会会長）の一行が本学を訪問された。その際、井田仁康、甲斐雄一郎、清水美憲、上田孝典、浜田博文が面会して両校の間で是非ともダブルディグリー・プログラムを開設したいと提案し、意見交換を行った。先方も積極的に受け止めて、今後、平成28年度中により具体的な協議を進めていくことになった。

（文責：浜田博文）